

## 刊行のことは

増田聡教授は、2024年3月31日をもって本学を退職されました。増田教授の長年にわたる本学での研究・教育などにおける業績を称えるために、本誌研究年報『経済学』の第82巻第1号を、増田教授のご退職を記念する特別号として刊行いたします。

増田教授は、1982年3月に東京大学工学部都市工学科を卒業され、1987年3月に東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程を修了、工学博士の学位を授与されました。そして、株式会社三菱総合研究所を経て、1990年10月に東北大学教養部に講師として着任され、教員としての第一歩を踏み出されました。その後1993年4月に東北大学情報科学研究科助教授、1997年4月に東北大学経済学部助教授（地域計画担当）、1999年4月に大学院経済学研究科助教授を経て、2000年4月に同教授に昇任し、以来2024年3月末に退職するまで、長きにわたり研究、教育、管理運営に携わられ、本研究科を支え続けてこられました。

増田教授のご研究は多岐にわたりますが、大きくは防災型土地利用をめぐるまちづくりや自治体政策に関する研究、および東日本大震災後の地域産業・地域社会の復興に関する研究の二つに分けられます。第一の分野の研究は、地域の防災計画と自治体の都市計画を連携させるために必要なプロセスと現状を分析した試みであり、従来の都市計画論にとっては異分野であった地形学や防災研究等の成果を取り入れて、新たな分析視角を提示しました。第二の分野の研究は、東日本大震災後の被災自治体における復興計画や復興事業に関する一連の著作です。これらは、広域的災害から東北の経済・社会をいかに復興させるかという課題に対して、コミュニティ計画やまちづくりの観点から、調査、分析、および政策提言を行ったものです。このように、増田教授の研究は、都市計画や防災に関する工学的な分析手法を、土地利用や復興事業等、現実の政策課題に関する社会科学的の研究に応用したものとと言えます。根拠に基づく客観的で精密な議論を数多くの著書、論文、調査報告等で展開されたことで、わが国の地域経済・地域経営論の発展に大きく寄与されました。

また、増田教授は、東北都市学会会長、日本都市学会理事等の要職を歴任し、都市工学や都市計画学に関する学会の運営や発展に大いに貢献されました。学内では、2010年4月から2011年3月まで大学院経済学研究科経済経営学専攻長、2015年4月から2017年3月まで大学院経済学研究科副研究科長を歴任し、管理運営面でも多大な貢献をされました。特に、2011年の東日本大震災後から2024年3月まで本研究科に設置された「震災復興研究センター」では、センター長として震災後の地域の復興モデルや都市計画の作成に尽力されました。

最後になりましたが、増田教授が今後ともますますご壮健で活躍されることを祈念すると共に、私たち後進に対し、引き続き温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2024年3月31日

東北大学大学院経済学研究科長 川 端 望